

平成28年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月17日実施)	総合評価(3月15日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	・児童・生徒一人ひとりの可能な限りの自立と社会参加及び社会貢献をめざし、小学部から高等部までの教育内容を改善し、一貫性・系統性のある教育課程を再編成する。	①キャリア教育の視点を盛り込んだ個別教育計画の見直しを行う。 ②各学部内の連携を重視した一貫性・系統性のある教育課程を再編する。	①各部門・学部におけるキャリア教育の観点を盛り込んだ個別教育計画の基準を作成する。 ②各学部において児童・生徒像の共有や各教科等の目標の確認を行うとともに、小中高の連携を重視した日課表等の見直しを行う。	①キャリア教育の観点を盛り込んだ個別教育計画を作成できたか。 ②小中高の連携を重視した日課表等の見直しできたか。 ③保護者アンケートの肯定的回答割合95%以上。	①部門ごとにキャリア教育の全体像をとらえる構造表の素案を作成できた。 ②部門長中心に情報共有を行い、学部間の連携を図りながら、授業改善を行った。	①キャリア教育の視点を個別教育計画に盛り込みつつ、引き続き理解しやすい記述で作成していく。 ②授業研究による組織的な授業改善から教育内容の改善を図るとともに、必要に応じた日課表の見直しを進めていく。	①②小学部から高等部までの一貫性・系統性のある教育を展開するには、教員の学部間交流が必要である。 <保護者アンケート> 97.3%が、キャリア教育の視点に基づく個別教育計画の取組に肯定的な評価	①②部門ごとにキャリア教育の全体像をとらえた構造図を作成でき、その構造図を個別教育計画や各学部の連携を重視した一貫性・系統性のある教育課程の改善につなげていく必要がある。	①②キャリア教育の構造図を活用して個別教育計画を作成するとともに、公開授業や研究授業の際にも構造図の観点に基づいた取組ができるようにし、日課表等の見直しを行う。計画的・定期的に教員の学部間交流を実施していく。
2 (幼児・児童・) 生徒指導・支援	・保護者との連携に基づき、きめ細やかな指導の実践に努める。 ・児童・生徒、保護者からの学びを大切にしながら、チーム力を活用した授業力の向上に努める。	①保護者との連携に基づき、児童・生徒指導・支援の実践を進める。 ②児童・生徒、保護者からの学びを大切に、校内の人的資源を活用した授業力の向上を図る。	①校内の教育相談を充実させ、保護者からの情報を重視し、一人ひとりの実態に応じた指導・支援を行う。 ②教育相談コーディネーター、専門職、看護師、栄養教諭、養護教諭等の人的資源を効果的に活用し、指導を充実させる。	①教育相談の窓口を明確にし、保護者の相談ニーズに適切に対応できたか。 ②専門職等がケース会議に参加し適切な支援を行うことができたか。 ③保護者アンケートの肯定的回答割合95%以上。	①保護者・教員向け通信を活用した広報に努め、保護者の相談件数が増加した。 ②相談内容に応じて適切な人的資源を活用しケース会議を実施した。校内の人的資源を活用し研修会を行った。	①保護者通信等で広報活動に努めることで窓口を明確にしていく。 ②相談内容に応じてケース会議に専門職等が参加し、適切な支援を進めていく。	①教育相談の窓口を明確にするよう、通信を配付するなどの取組を進めているが、専門職等に相談できることを知らない保護者がまだいる。 <保護者アンケート> 97.9%が、学校と保護者との連携の取組に肯定的な評価	①広報活動により、教育相談の窓口を明確にしてきているが、そのことを知らない保護者もいる状況がある。 ②専門職等を活用したケース会議や研修会を実施しているが、より効果的な活用により指導の充実を図る必要がある。	①保護者への発信方法を工夫し、広報活動を充実することで、教育相談の窓口を明確にしていく。 ②専門職等を活用したケース会議や研修会の機会を増やし、各学部の授業の充実を図っていく。
3 進路指導・支援	・可能な限りの自立と社会参加をめざす進路指導・支援を充実させる。	①可能な限りの自立と社会参加をめざし、小中高を意識した授業内容や進路指導の充実を図る。	①校内・校外実習の充実を図るとともに、発達段階を意識した児童・生徒のコミュニケーション能力や社会性を養う授業を進める。 ②関係機関と連携し、小学部の段階からの進路に関する保護者説明会の実施や教員の施設研修等の充実に努める。	①児童・生徒が卒業後に必要な力を、各学部段階で身につけることができたか。 ②保護者説明会の実施回数と参加者数、教員の施設研修等の参加者数。	①教員向け進路研修等を実施し、卒業後の生活や課題について意識を高めた。 ②小中学部・高等部の保護者向けに、福祉研修会を実施するとともに、福祉事業所合同説明会・見学会を実施した。	①教員向け研修会や通信等を通して、引き続き発達段階を意識したコミュニケーション能力や社会性を養う授業の取組を進めていく。 ②進路説明会の参加率は、2～3割、福祉事業所合同説明会の参加率は4割となっているため、保護者通信等を通して広報に努めていく。	①就労に向けて、正しい生活リズムを身に付けることができるよう意識付けを行っていく必要がある。 ②小学部の段階から、進路説明会等を通して、保護者に対して進路に関する情報提供がされるのは有意義である。卒業生の様子を保護者に伝えてもらえる機会があるとよい。	①教員向け研修等を通して、児童・生徒等について意識を高めることができる授業づくりが必要である。 ②進路説明会や事業所説明会の参加率を高め、適切な進路選択ができるようにする必要がある。	①教員向け研修を継続的に実施することなどにより、児童・生徒が卒業後に必要な能力を身につけることができる授業を展開していく。 ②広報活動を充実させ、進路説明会や事業所説明会の参加率を高めていく。進路説明会の機会等を活用し、保護者に卒業生の状況を伝えていく。

4	地域等との協働	<p>・地域社会及び関係諸機関との連携を図り、児童・生徒がいきいきと生活できる地域社会づくりに貢献する。</p> <p>・地域と共に学び、地域における支援教育に関する専門性を向上する。</p>	<p>①共生社会の実現に向け、開かれた学校をめざす。</p> <p>②地域の学校や関係機関と連携し、センタ一的機能の充実を図る。</p> <p>③児童自立支援拠点との教育・連携体制を構築する。</p>	<p>①理解啓発のための作品展や、地域を対象とした公開研修会等を開催する。</p> <p>②幼・保・小・中・高・特別支援学校のニーズに応じた教育相談を進めるとともに、市町支援チーム会議等を支援する。</p> <p>③平成29年4月の児童自立支援拠点の円滑な開設に向け連携を図る。</p>	<p>①作品展参加者のアンケートにおける肯定的評価の割合、公開研修会の開催回数と参加者数</p> <p>②巡回相談等の実施回数、支援チーム会議等への参加回数。</p> <p>③児童自立支援拠点と適切に連携を図ることができたか。</p>	<p>①作品展に326名の参加があり、肯定的評価が100%であった。公開研修会を1回実施し、校外より42名の参加があった。</p> <p>②巡回相談を62回実施(幼保25回、小25回、特支4回、他3回)した。</p> <p>③学部長・運営部長等が中心に、対象児童生徒の観察や本校での学校見学を行った。</p>	<p>①地域に向けた公開研修会のテーマや講師を模索していく。</p> <p>②学校との巡回相談や高等部入学予定者移行支援巡回相談等を通して情報を密にするとともに、教育委員会等と連携を取り、ニーズに合った教育相談を進めていく。</p> <p>③引き続き、相互に見学や打合せ等を行いながら連携を図り、次年度の児童・生徒の受入れ体制を確立していく。</p>	<p>①小学校と平塚養護学校との学校間交流が下支えとなり、通常の学級の児童の特別支援学級の児童への支援につながっている。</p> <p>②地域の小学校への巡回相談やケース会議の実施が、障害のある児童への指導の充実に役立っている。</p>	<p>①作品展や公開研修会の実施により、支援教育に関する理解啓発を行った。</p> <p>②地域の学校への巡回相談等を積極的に行った。肢体不自由特別支援学校からの相談ニーズが増加している。</p> <p>③児童自立支援拠点の円滑な開設に向け、関係機関との連絡調整や引継ぎを適切に行った。</p>	<p>①広報活動や展示方法の工夫等により作品展の参加者を増やしていく。</p> <p>②ケース会議等の日程調整を工夫し、地域の学校からの相談ニーズに対応できるようにする。地域の学校における研修ニーズを探り、研修の充実を図っていく。</p> <p>③児童自立支援拠点(子ども自立生活支援センター)との連携を適切に行い、関係児童・生徒の教育の充実を図っていく。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>・教員の人格的資質及び専門性の向上を図る。</p> <p>・安全で安心できる指導体制及び管理体制の整備を進める。</p>	<p>①教員の人権意識と専門性の向上に向けた組織的な研修・研究及び授業改善を進める。</p> <p>②保護者と連携し、安全な医療ケア等の実施に努める。</p> <p>③地域との連携を重視した防災体制や安全な教育環境の整備を進める。</p>	<p>①授業研究を活用した授業改善を進めるとともに、人権意識や専門性を向上する研修会を開催する。</p> <p>②医療ケア等に関する関係者の情報共有を確実にを行うとともに、保護者懇談会の充実を図る。</p> <p>③ひらよう防災デーや警戒宣言発令時対応訓練の実践を通し、防災体制の整備を行う。</p>	<p>①授業研究会や研修会等を通して、人権意識や専門性の向上を図ることができたか。</p> <p>②安全に医療ケア等を実施することができたか。</p> <p>③ひらよう防災デー、警戒宣言発令時対応訓練の参加者数。</p> <p>④保護者アンケートの肯定的回答割合95%以上。</p>	<p>①公開授業や授業研究会を行うことにより授業改善や学部研究に取り組んだ。</p> <p>②保護者懇談会で情報交換を行い、その内容をケアルーム便りとして配付した。</p> <p>③ひらよう防災デーに保護者及び児童生徒26名、地域の方6名の参加があった。対応訓練は全校の46%が参加した。福祉避難所の運営等について、市の担当部署と協議を行った。</p>	<p>①校内研究の活性化を図ること等を通して、各学部における専門性の向上を図っていく。人権意識を高める研修を引き続き実施していく。</p> <p>②保護者懇談会では、開催期日を早めに周知し、興味を引くテーマを設定し、参加者を募っていく。</p> <p>③福祉避難所運営について平塚市と連携し、運営マニュアルの作成を進める。年度当初に物品や係分担等職員の防災体制の確認を行う。保護者の防災に対する意識を高められるようにPTAと連携して訓練等を行う。</p>	<p>①授業改善や学校研究の推進のためには、若手とベテランのコミュニケーションが重要である。</p> <p>③地域の住民が一時避難した後、福祉避難所としての平塚養護学校と自治会がどのように連携していくかを検討する必要がある。</p> <p><保護者アンケート> 99.3%が、学校の健康と安全に配慮した取組に肯定的な評価</p>	<p>①公開授業や授業研究の活性化を通して、教員の専門性向上を図った。</p> <p>②保護者懇談会の開催により、課題を共有し、安全な医療ケア等の実施につなげた。</p> <p>③ひらよう防災デーや対応訓練を実施したが、参加率を高める必要がある。平塚市と福祉避難所の運営について検討したが、実行性のある運営マニュアルの整備が必要である。</p>	<p>①キャリア教育の構造図を活用して、公開授業や学校研究を充実させ、教員の専門性の向上を図っていく。</p> <p>②広報や内容の充実により、保護者懇談会の参加者を増やし、安全な医療ケア等の実施に必要な情報の共有を行っていく。</p> <p>③興味を持って防災意識を高めることができるよう、防災フェスティバル(仮称)を開催する。</p>